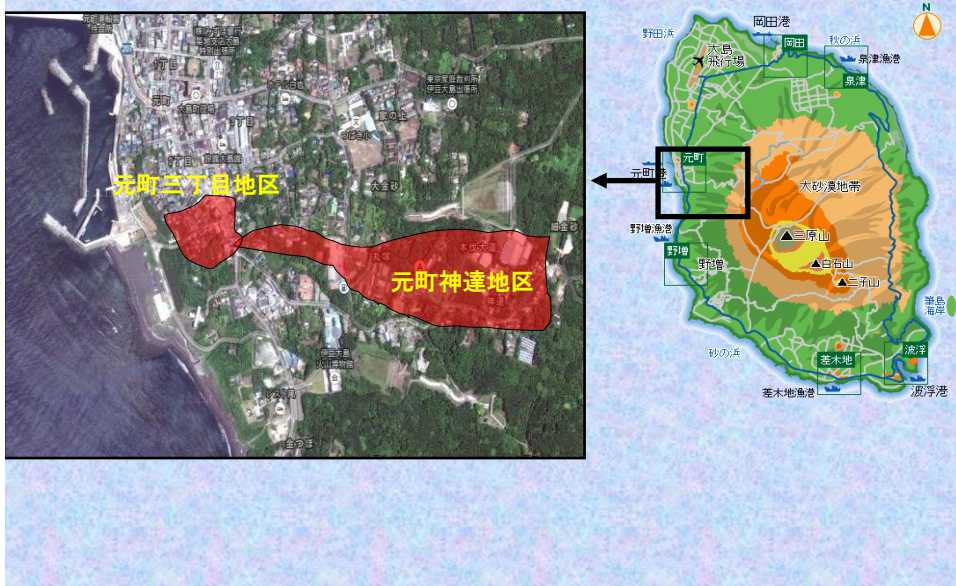


東京都大島町 土砂災害に伴う活動

東京消防庁特殊災害課

大島町元町地区



東京都大島町の被害状況（H26・1月15日現在）

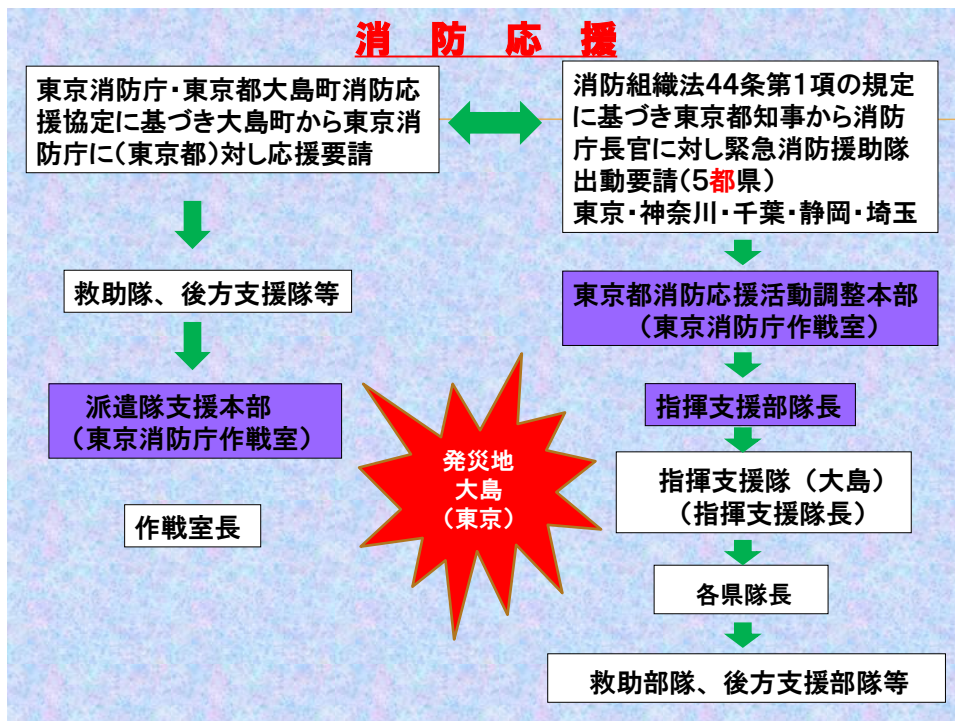
人的被害 死者36名 行方不明者3名 傷者25名

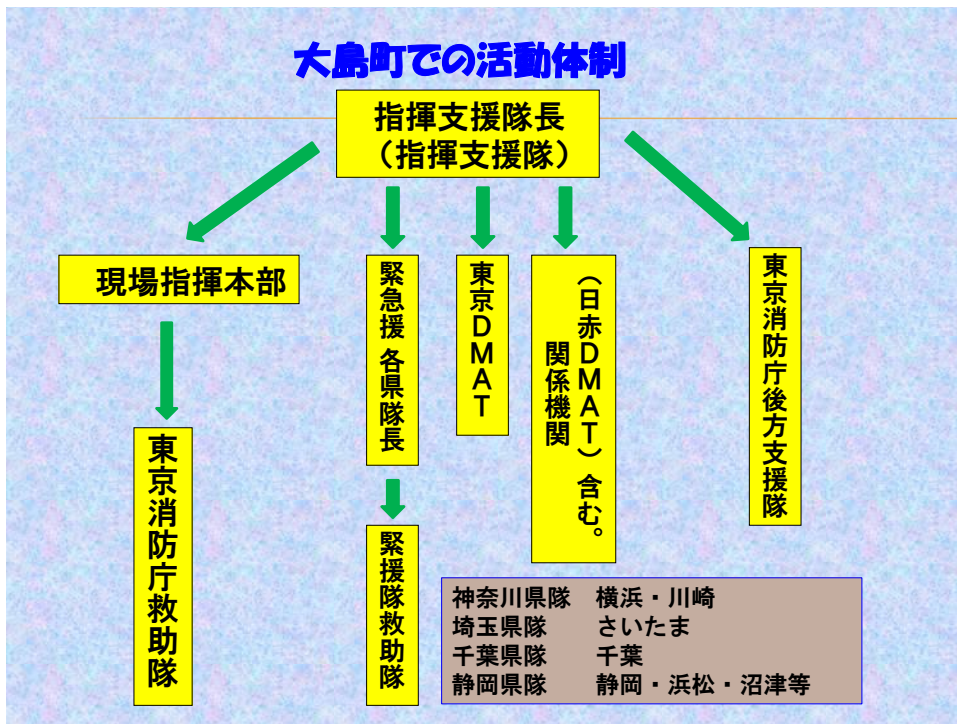
住家被害 全壊73棟 半壊37棟 一部破損191棟

（総務省消防庁発表）

10月16日	10時14分	第1次派遣隊出場命令
11月 7日	13時15分	第43次派遣隊出場命令
11月 8日	15時00分	消防応援活動終了
11月 9日	7時00分	現地連絡員2名派遣命令
11月15日	13時20分	連絡員帰庁

延べ派遣人員
3,782名





関係機関との連携活動

- **東京消防庁**・・・大島町との応援協定、指揮支援隊（緊急消防援助隊）
- **緊急消防援助隊**・・・（神奈川・千葉・埼玉・静岡県隊）
- **大島町消防団**・・・活動＋消防団長は、災対本部に常駐
- **警視庁**・・・救助活動＋遺体収容
（警察官1名は、必ず災対本部に常駐、遺体が発見された場合の対応）
- **自衛隊**・・・救助活動、人員、資器材の輸送（C1、ホバークラフト）
- **海上保安庁**・・・海面、海中の検索救助
- **総務省消防庁**（災対本部に常駐し緊急消防援助隊に係る連絡調整）
- **国土交通省**（活動危険の点検、二次災害防止資器材の設置）
- **気象庁**・・・（ピンポイントの気象状況提供）
- **東京都**（総合防災部、大島支庁）
- **大島町**（災害対策本部）
- **東京DMAT**・・・（要救助者が発見された際の観察）

関係機関による対策会議



関係機関による対策会議



東京DMATとの現場打合せ



DMAT医師による死亡確認



状 況 把 握

- 1 島部であったためニュース等の映像
- 2 第一次派遣隊でのヘリからの映像
- 3 総務省消防庁からの情報
- 4 東京都総合防災部からの情報
- 5 住居跡・居住状況は、地元消防団の情報が大きな決め手となった。

東消ヘリ はくちょう



上空から見た被災状況 ①



上空から見た被災状況 ②



上空から見た被災状況 ③



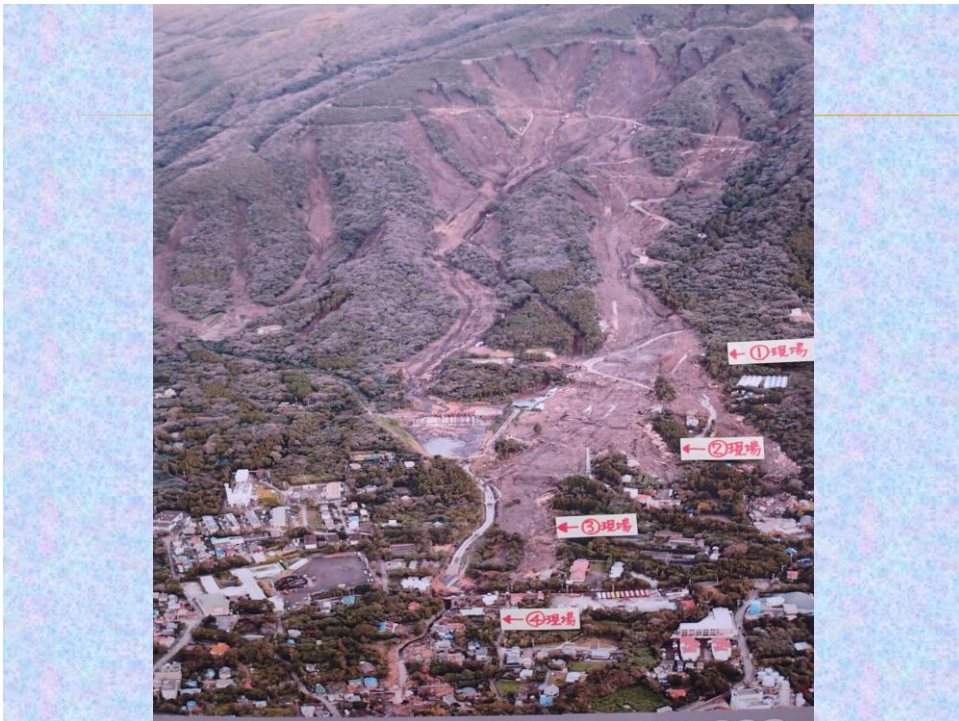
上空から見た被災状況 ④



活動範囲の区割り

検索救助範囲が広大

- ① 消防
- ② 自衛隊
- ③ 警察
- ④ 海上保安庁



活動場所の区分け



検索箇所の優先順位

- ① 倒壊・埋没家屋
- ② 車両内部
- ③ 住居があった場所
- ④ 泥流の流れ止まった場所
- ⑤ 海面・海中

半壊した住居建物



半壊した住居建物



全壊した住居建物



全壊した住居建物



土砂により押し潰された車両



検索活動に活用した住宅地図



住宅地図に基づく住居場所の検索



土砂の溜まり場検索



土砂の溜まり場検索



布団発見





検索済の表示



二次災害防止

- 1 活動隊の上方部に安全監視隊を配置
- 2 国土交通省による監視カメラやワイヤーセンサー設置
- 3 国土交通省のアドバイスによる活動地点の安全確認
- 3 夜間の活動は、麓に限定
- 4 天候の状態により、活動を一時中止
若しくは、気象情報から活動可否の判断

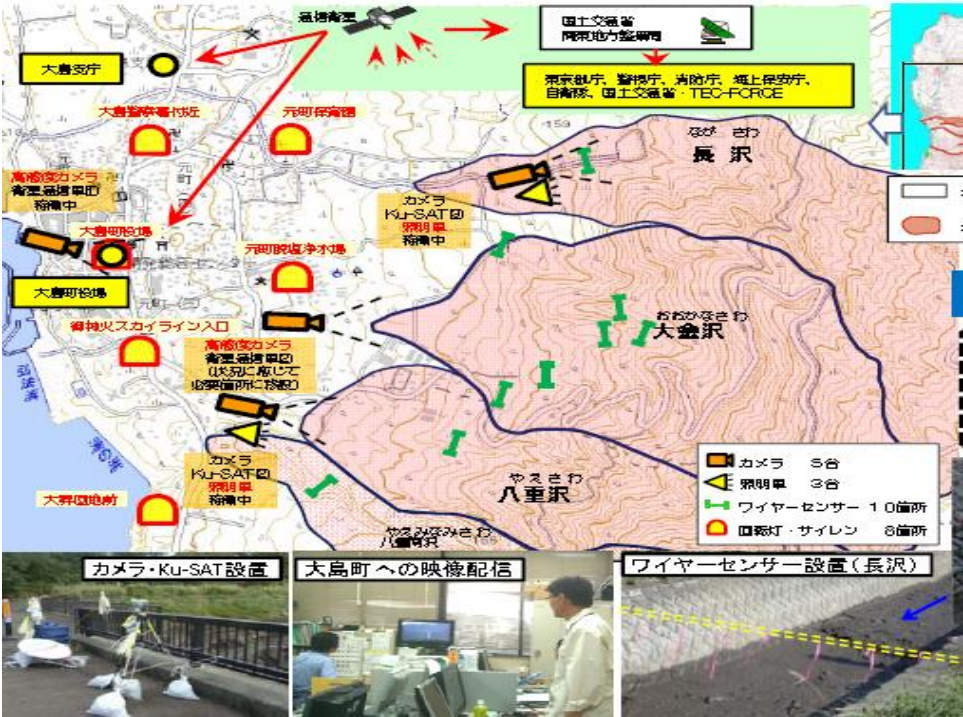
国土交通省による安全点検

搜索開始前の点検実施



TEG-FORCEによる説明





夜間の活動



夜間の活動



迅速な救助活動

1 早期大量救助部隊の投入

- 当庁ヘリでは、限界があった。
- 第五次派遣隊は、自衛隊輸送機C1で入間基地から人員、救助資器材、車両2台を空輸した。

2 早期重機、救助資器材の投入

- 現場入りした部隊からの必要資器材要請でヘリ、船舶で輸送した。

3 24時間の活動

- 昼間は、全消防部隊が検索救助
夜間は、2時間交代での活動

資機材の効果的な活用

1 重機の活用

重機は、数日後に投入された。大規模な土砂災害では、重機の早期投入が不可欠

2 土砂の中に原木・瓦礫が多く、チェーンソーの活用

原木等に土砂が付着しており、すべてのチェーンソーに刃こぼれが発生し使用不能になった。

3 夜間を徹しての活動には、強力な照明が必要

照明車等が進入できない場所では、投光器、ヘッドライト、懐中電灯等の照明では、足りなかった。

チェーンソーによる流木の切断



流木根の切断



重機による樹木の除去



重機による樹木の除去





小型重機による掘削





自衛隊の運搬車

